

### 加須市

- 基本的に賛同する。
- 協議会における共同検討開始のタイミングで、本市においては北川辺地域の特別な地域特性があるため、また、明るいうちに避難情報を発令するため、自主的広域避難情報を出す。
- 広域避難対象地域・地区住民分の避難場所は市内で確保したが、コロナ禍で不足することとなった。公的な避難先については、加須市を優先するが、改めて周辺市町にも受け入れをお願いしたい。

### 古河市

- 協議事項は、東日本台風の教訓が反映されており、全体として同意する。
- 広域避難勧告は、風雨の状況や昼夜のタイミングに応じて、早期から提案する場合もある。
- 市民に、知人や親戚宅の他に車中避難なども含め、避難所以外へ避難するよう呼び掛けていく。

### 坂東市

- 広域避難に協力し、事前に綿密な打合せを行い連携していく。
- 昨年8月に利根川大規模氾濫に備え、初めて水害を想定し住民参加の避難訓練を実施した。今年度も、自助・共助の促進を併せた住民参加による避難訓練を実施する。
- 要配慮者利用施設53ヶ所について、避難確保計画の作成講習会を実施し、全施設の避難確保計画の作成が完了している。

### 板倉町

- 72時間前が、注意喚起になるという意味で賛成する。近隣市町の対応の違いがある場合、住民同士の不安も重なるため、連携を深める必要がある。
- 個人の広域避難と垂直避難と公的広域避難などを組み合わせなければ町民の安全が保たれない。
- 他県も含めた広域避難を依頼する必要がある。

### 境町

- 今回の協議事項について賛同する。
- 広域避難先の1番目を、知人・親戚宅にしたことは、広域避難先を指定する際に1番良い事である。
- 新型コロナウイルスの発生により、広域避難と複合避難を考える必要がある。避難所については、設備体制の見直しや、大きな駐車場や他の施設の確保を進めている。

### 佐野市

- 広域避難の連携が円滑に行えるよう、更なる周知を図る。
- 7月に改訂版のハザードマップと、感染症拡大を防止するための避難行動の資料を全世帯へ配布し、分散避難を周知する。
- 平時から、一人ひとりの災害に対する備えが、最善な避難行動に最も重要である。

### 館林市

- 協議事項について、本市は賛同する。
- 共同検討開始にWeb会議の検討があり、今日の会議は、そのリハーサルとも言える。
- 市内の県立高校等を広域避難の受け入れ施設として位置付けた。広域避難モードがオンになった時に、円滑な避難所の開設や受け入れが、可能になるよう、昨年度から調整を行っていた。

### 野木町

- 72時間前からの提案は重要であり、県を跨いでも避難の広域性をしっかりと捉えるという事は、大変意義ある事である。
- 新型コロナウイルス関連で様々な注意事項があるが、それに関わらず、命は1番尊いという事を皆で共通理解する必要がある。
- 72時間前という提案は、町民にも広く知らせ、「3日前」からの気象情報に注意喚起し、着実に対応出来るような避難体制が重要である。

### 栃木市

- 協議会の提案は賛同する。早めの行動が出来る。
- 避難所開設にあたり、早めの準備が出来る事ため、72時間前という取り組みは、非常に良い。
- 新型コロナウイルス感染症に対応した、避難所の運営指針の作成、対策を検討している。受け入れる立場として、新型コロナウイルス対策について、近隣の市や協議会で避難所の運営の在り方を、すり合わせる必要がある。

### アドバイザー

- 東日本台風では、全国で初めて広域避難が実施されたが、検討を長年にわたり共にやってきた事で広域避難の対応が出来た。また、多くの地域で、受け入れがされており、4県境の協力体制が実質的に出来ている事が議論の成果である。
- 実際に広域避難を行い渋滞が発生したが、決して渋滞が大きな失点だと認識する必要は無い。早め早めに行動を取る事が渋滞対策にとって1番重要であり、今回の反省点を意識付けとして住民と共有する方向で話をする必要がある。

#### 【広域避難体制について】

- 共同検討の開始が最速72時間前という事で、明確に基準を定めた。これは、共同検討の開始という単なる文言ではなく、「共同検討を開始した」という住民への情報だと位置付ける。
- 72時間前にアラートモードをオンにしておくことで、住民は、「今回、もしかしたら」といった意識を持つ事ができ、共同検討開始という情報は、重要な意味がある。

#### 【広域避難先について】

- 東日本台風の経験やコロナ禍も含めて、行政が準備する避難所だけに頼るのではなく、自分の親戚縁者を頼るなど、出来る限り自らの快適性を維持できる避難先を決めておく事の意義・意味を住民が感じ取ることが重要である。
- 浸水の恐れのない地域の親戚知人宅、宿泊先、勤め先、さらには、自動車の避難という事も明確に位置付け、自らが準備する避難の在り方が最優先に置かれた事の意義は大きい。しかし、それが叶わぬ方も居るため、行政もしっかり避難先を整え、よりスムーズに避難できるようにすることが急務である。